

ステップアップ表(臨床実践能力段階別到達目標)

時期	新人	ステップ1	ステップ2	ステップ3	ステップ4
	ジェネラリストの育成				中堅ナース
年数	1年目	卒後2年目	卒後3年目	卒後4～5年目	卒後6年目以上
到達目標	①日常生活援助のための基本的知識・技術・態度を身につけ、ベッドサイドケアが安全確実にできる。	①看護業務実践基準が理解できる。 ②チームメンバーとして役割と責任を果たすことができる。	①看護業務実践基準に沿って、個性のあるケアが実践できる。 ②看護実践を通じて看護観を養い、明確に表現できる。 ③プリセプターができる。	①看護実践モデルとなり後輩指導ができる。 ②看護実践場面においてリーダーシップがとれる。 ③チーム活動を通して、問題解決に取り組める。 ④看護研究に積極的に取り組める。	①看護業務実践基準に基づき、創造的な看護実践が展開できる。 ②医療チーム内で看護のリーダーシップがとれる。 ③部署における教育的役割がとれる。 ④自己のキャリア開発についての目標がもてる。
評価項目	<p>1. 看護展開</p> <p>プロフィールに沿ってその意味・目的を理解し情報収集できる</p> <p>看護実践基準の看護アセスメントの視点が示せる</p> <p>2. 看護技術</p> <p>看護技術評価表が「3」になる</p> <p>3. 領域固有</p> <p>4. 安全対策(防災・事故・感染)に常に関心をもち看護業務の準備・片付けができる。</p> <p>5. サポートを受けてチームメンバーの役割ができる。</p> <p>・チームメンバーの役割がわかる</p> <p>・報告・相談ができる</p> <p>・チームメンバーとして行動できる</p> <p>1) 対象をはじめとする自分を取り巻く周囲の人々への親切的な対応が看護の基盤と実感できる。</p> <p>2) 態度と行動の取得ができる。</p> <p>3) 看護倫理の事例展開により自己の振り返りができる。</p> <p>① 助産師看護師としてやりがいを感じる事ができる。</p> <p>・自己肯定できた経験を言葉にできる</p> <p>・看護や助産が「好き」と言える</p> <p>・次年度への思いを表現できる</p> <p>② 日常的にレベル1に向け努力している。</p> <p>・現場で必要な知識・技術を理解している</p> <p>・自己の知識・技術のレベルを知っている</p> <p>・自己の目標を設定できる</p>	<p>1. 看護実践</p> <p>□意図的に情報収集して、対象のニーズが把握できる。</p> <p>□看護上の問題を明確にし、アウトカム達成に向けた看護過程が展開できる。</p> <p>□根拠に基づいて看護技術を安全確実に実践できる。</p> <p>□看護記録のガイドラインに沿った記録ができる。</p> <p>□緊急時、支援をうけながら対応できる。</p> <p>□対象の立場を理解し、医療チームとして対応できる。</p> <p>2. 管理</p> <p>□安全対策マニュアルに沿って行動できる。</p> <p>□チームメンバーとして役割が発揮できる。</p> <p>□部署の目標を理解し、その達成のための活動に参加できる。</p> <p>3. 教育・研究</p> <p>□学習課題を明確にし、院内外の研修に積極的に参加できる。</p> <p>□自分の行った看護実践を看護業務実践基準の活用事例として発表できる。</p>	<p>1. 看護実践</p> <p>□全体像を捉え、対象のニーズにあった看護実践ができる。</p> <p>□根拠と観察に基づいた看護技術を選択し、提供できる。</p> <p>□看護実践の結果を正確かつ簡潔に記録できる。</p> <p>□緊急時、災害時、迅速な判断・行動・報告ができる。</p> <p>□患者に及ぼすリスクを予見し、適切な対策が実施できる。</p> <p>□職種間で情報交換を行い、社会資源等の活用ができる。</p> <p>2. 管理</p> <p>□事故発生時対応できる。</p> <p>□業務上のリーダー役割ができる。</p> <p>□部署の目標達成に向けて問題解決過程が実践できる。</p> <p>3. 教育・研究</p> <p>□自己の課題に対して、積極的に取り組むことができる。</p> <p>□新人・学生に対して、根拠をもって指導ができる。</p> <p>□プリセプター役割をとることができる。</p> <p>□看護実践をとおして自己の看護観を明確に表現できる。</p>	<p>1. 看護実践</p> <p>□アセスメントの視点を活用し、看護過程が展開できる。</p> <p>□対象の意見を考慮した看護計画の立案・実施・評価ができる。</p> <p>□入院から退院に至るまで包括的な看護が実践できる。</p> <p>□社会資源等活用して、対象のニーズにあった継続看護が提供できる。</p> <p>□カンファレンスで積極的に情報交換できる。</p> <p>□看護記録の自己監査ができる。</p> <p>2. 管理</p> <p>□緊急時、災害時、事故発生時指導できる。</p> <p>□リーダーシップを発揮して、看護チーム内の業務調整を図れ指導・支援ができる。</p> <p>□部署の目標達成に向けてリーダーシップを発揮できる。</p> <p>3. 教育・研究</p> <p>□看護研究の基礎知識を整え、研究に取り組むことができる。</p> <p>□学習の成果を看護実践に活用できる。</p>	<p>1. 看護実践</p> <p>□看護業務実践基準に沿った看護実践を示すことができる。</p> <p>□看護実践において創造性を発揮できる。</p> <p>□参加型看護が実践できる。</p> <p>□チーム医療を円滑に図ることができる。</p> <p>□カンファレンスを率先して開催し、他のメンバーに指導できる。</p> <p>□看護記録の監査を行い、実施した看護の適切性・妥当性について評価・修正できる。</p> <p>2. 管理</p> <p>□他部門と円滑な調整ができる。</p> <p>□看護管理上の問題発見やその解決に向けて積極的に行動できる。</p> <p>□病院・看護部委員会活動の役割を担い、部署へ還元できる。</p> <p>3. 教育・研究</p> <p>□後輩および学生に対し、教育的に関わることができる。</p> <p>□さまざまな院外研修に参加し、高い専門知識技術を習得し部署への還元ができる。</p> <p>□看護研究の指導ができる。</p> <p>□自己の研究テーマをもち、研究としてまとめ発表できる。</p>
	研修内容	新人研修・わかば研究 プリセプティブフォローアップ研修 安全管理・看護業務記録	卒後2年目研修 「看護業務実践基準の活用」	プリセプター研修 プリセプターフォローアップ研修	看護研究 リーダー研修 院外研修
評価基準	1. 看護技術評価表がすべて「3」以上になる。 2. 部署ごとの教育計画に沿った行動がとれる。 3. 新採用後期研修で、次年度の課題を明確に述べている。	1. 評価項目が他者評価で全て「3」以上になる。 2. 看護記録の他者監査を2事例受け、監査項目の70%以上が「はい」になる。 3. 自分の行った看護実践を看護業務実践基準の活用事例として発表できる。	1. 評価項目が他者評価で13項目中10項目以上(80%)が「3」以上になる。 2. 看護記録の他者監査を2事例受け、監査項目の80%以上が「はい」になる。 3. 自己の看護観を事例で示すことができる。	1. 評価項目が他者評価で11項目中10項目以上(90%)が「3」以上になる。但し、ステップ2の評価項目が他者評価で全て「3」以上であること。 2. 看護研究もしくはリーダー研修の結果を示すことができる。	1. 評価項目が他者評価で全て「3」以上になる。 2. 自己のキャリア開発についての計画書を示すことができる。 3. 看護研究の結果を院外発表できる。